

## 第281回 番組審議会

1. 日 時 平成31年 4月 9日 (火) 12:00～
2. 場 所 メトロポリタン盛岡NEW WING 11F「マーキュリー」
3. 委 員 委員総数 8名  
出席委員数 8名 (欠席委員数 0名)

### ○ 出席委員 (敬称略)

鈴木 厚人 (委員長)

砂子田 智 (副委員長)

—以下50音順—

石田 征広

小崎 博子

菅原 正二

高橋 博昭

八木橋 伸之

役重 真喜子

### ○ 会社側出席者 (7名)

藤澤 利憲 (代表取締役社長)

小原 忍 (取締役副社長)

藤原 銀司 (常務取締役)

工藤 浩 (取締役)

高嶋 昇 (取締役営業編成局長兼東京支社長)

近谷 利政 (報道制作局報道部長)

井上 智晶 (報道制作局報道部主任)

### ○ 事務局 佐々木 久仁子

#### 4. 議 題 『岩手/宮城/福島 合同特別番組

明日への羅針盤～震災から8年 目指した復興は～』

平成31年 3月11日(月) 15:50～17:53放送

#### 5. 議事概要

今回は、平成31年3月11日月曜日午後3時50分から放送した『岩手/宮城/福島 合同特別番組 明日への羅針盤～震災から8年 目指した復興は～』を審議しました。議事の概要は、以下の通りです。

##### ●岩手めんこいテレビ報道部 近谷利政部長からの説明

・震災から8年がたち風化が叫ばれている中、平日夕方の時間帯にどうやって多くの人に見てもらえるかが課題だった。

これまでと大きく違う点は、メインMCにラジオパーソナリティのやまだひさしさんを起用したこと。その理由としては、ゲストの意見を引き出せること、生放送にも強く番組を上手く回せること、そして東京在住ということで一歩引いた目線で震災を語れる人、この3点から決めた。

・ラジオのように視聴者との双方向性を意識し、初めてツイッターを採用した。2時間の番組中に約130件のツイッターが届いた。かなりトライアル的な、チャレンジ的な番組になったと思う。

##### ●岩手めんこいテレビ報道部 井上智晶主任からの説明

・震災特番には、2011年から毎年関わっているが、8年たつと岩手県内でも被災地のニュースは少なくなっていて、いかに視聴者に関心を持ってもらうかが課題だった。

・岩手からは、震災メモリアルパーク「うのすまい・トモス」と陸前高田市の人口減少について伝えた。「うのすまい・トモス」は、遺族が釜石市を訴えた裁判などもあったが、中継で紹介できることを優先し、震災の教訓をしっかりと伝えることにした。陸前高田市は、かさ上げた土地に広大な空き地が広がっていることを改めて問題提起し、さらに未来に希望が持てる若者の存在を伝えたいと思って選んだ。

## ●出席した委員からの意見

- ・各局が自分の県の視聴者に向かって作っているような感じがした。閑上やJヴィレッジが、どういう位置にあるのか、どういう役割を果たしたのか、他県の視聴者にも分かるような配慮が欲しかった。
- ・震災遺構について取り上げてほしかった。3県をつなぐような形でやると参考になる良い番組になったと思う。
- ・石橋美希アナウンサーが臨場感のあるリポートをしていて良かった。声のトーンや、話し方も良かった。
- ・距離感と深さがちょうど良かった。これ以上やると暗くなり過ぎたり、明るくなり過ぎたりしたと思う。
- ・原発事故さえなかったらというあと味は残るが、希望を持たせるような明るい感じの印象で終わっていて、良かった。
- ・やまだひさしさんの明るさで成功したと思うが、他のコメンテーターと連携が取れていたか検討は必要だと思った。
- ・各局2題ずつ出す必要があったのか。1題に絞ってじっくりやった方が面白かったのではないか。
- ・福島大学に除染学科を作って、国のお金をかけてやってほしい。そのぐらい本気でやってほしいと番組を見て思った。
- ・陸前高田市の人口減少問題を真正面からとらえて逃げていない、非常に好感が持てた。
- ・タイトルに「目指した復興は」とあるが、「目指した復興」をどうやって、いつ、誰が検証するんだろうと思いつつ見ながら見た。
- ・今後も番組を続けていくという前提で、過疎の問題や震災遺構の保存など、振り返るようなテーマが切り口としてあれば、より良かったと思う。

・やまだひさしさんのことを知らなかったので、最初に違和感があった。大林素子さんが被災地を支援していることも知らなかったので、やまださんや出演者について、最初に説明があるといいと思う。

・ツイッターに対して、あまりにきれいに回答されていた。ツイッターはリアルが売りだと思うので、やるのであれば番組が始まる前からツイッターで広めてもらうとか、SNSと連動した取り組みがあってもいいと思う。

・番組を見て人に伝えたいものがいくつか残った。ぜひ今後も続けてほしい。

・3月に定点観測的に番組が続いてきたことは素晴らしい。これからも続けてほしい。

・メディアとしての課題提起という部分で、これからはなされようとする政策のどこに課題があって、どういうところに切り込んで声を上げていけばいいのか、そういうところに導くメディアの役割、責任といったものを見せてほしかった。終わり方がやや物足りなかった。

・福島の特異性は福島だけのものではなく、せつかく3県特別番組なのだから東北としてどう考えていくべきか、視聴者にも発信し続けてほしいと一番強く感じた。

・人口減少について、やまださんが「震災があったから減ったんじゃなくて、震災がなくても減り続けているんですよ」と言っていた。あまり表に出したくない部分も正確な情報として表に出していかなければならないだろうと思う。そういうところに今後の意義があると感じた。

・やまだひさしさんは、メインMCより大林素子さんの席にいた方が個性があつてよかったのではないかな。

・3社合同の番組は非常にいい取り組みだが、テーマがゴチャっと入っている感じがした。ライブ性で大事にするものと、テーマ性で大事にしていくものをどう切り分けてやっていくのかが宿題なのかと思った。

・JR東日本が作った津波避難行動心得のような、日本全体で津波に対する心得の全国版を作って徹底することが必要だという気がした。

・過去の経験を次に生きるような形にできないか、それが羅針盤の意味だという気がした。

・福島県飯館村でもっと違った街にしようと成功している例もある。暗い感じだけではなく、新しい生まれ変わるところもあるのでそういうものがあれば紹介してほしい。

●委員からの質問、意見に対する会社側からの回答

・番組は3県でしか放送されなかったが、やまだひさしさんが、放送後、ラジオで被災地のことを発信していて、まださんのおかげで被災地の現状を全国に伝えてもらっている。

・今後の番組づくりについて、テーマ性を絞ることを考えていきたいし、復興の検証といったところにも力を入れていきたいと思った。

6. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置

特になし

7. 審議機関の答申意見概要を公表した場合におけるその公表内容、方法及び年月日

※平成31年4月10日（水） 産経新聞 東北版

※平成31年4月20日（土）午前4時12分から4時15分まで「めんこいテレビ番審リポート」として放送

※据え置き書類を作成し、本社受付、各支社に備置き一般の人々が自由に閲覧できるようにした

8. その他の参考事項  
特になし

次回は、平成31年5月14日(火)12時より3階「星雲東の間」にて開催  
予定です。